

## InnoTrans 2026 に出展しました ～ 鉄道のデジタルメンテナンスなど3つの研究成果を発信～

2026年9月28日  
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所(以下、鉄道総研)は、2026年9月22日から25日までドイツ・ベルリンで開催されたInnoTrans 2026に出展しました。鉄道総研ブースには約25ヶ国・約550人が訪れました。

### 1. InnoTrans について

InnoTransは2年に一度開催される、交通技術に関する国際見本市です(写真1)。展示は5つの分野(鉄道技術、鉄道インフラ、公共交通、インテリアデザインおよびトンネル建設)に分かれており、今回は速報値で、来場者数17.5万人(16万人\*)、出展者数3,190(2,946\*)となりました。

\*2024年実績

### 2. 鉄道総研の展示と発表

鉄道総研はJORSA(日本鉄道システム輸出組合)の共同出展者として、世界の鉄道関係者に対して研究所の概要や以下の研究開発成果を発信しました(写真2)。

#### ・鉄道のデジタルメンテナンス

メンテナンスの省人化や熟練技能に依存しない検査を目指した、軌道の健全性評価支援ツール、トンネル検査支援システムと打音判定AI、ドローンを活用した橋りょうの検査周期延伸について紹介しました。

#### ・自律型列車運行制御システム

踏切のある既存路線において、設備を大幅に変更せずに、ドライバレス運転を実現する自律型列車運行制御システムの要素技術として、列車に搭載したLiDARとカメラによる前方支障物検知や、運転士や指令が列車運行に必要な情報を一元的に管理・表示するダイナミックマップを紹介しました。

#### ・鉄道的高速化

鉄道的高速化を実現するために、車両性能の向上に加えて重要となる、高速化に伴う騒音やトンネル微気圧波などの環境負荷の低減および乗り心地の向上に対する研究開発成果について紹介しました。

特に、デジタルメンテナンス技術は、コスト削減や省人化の観点から多くの来訪者から高い関心が寄せられました。また、鉄道総研は各機関の展示内容や意見交換を踏まえ、世界の鉄道技術開発の動向を把握しました。今後、これらの知見を研究開発に反映させるとともに、国際的な共同研究や技術協力に向けた連携の強化につなげていきます。

次回のInnoTransは2028年9月にドイツ・ベルリンで開催される予定です。



写真1 会場外観

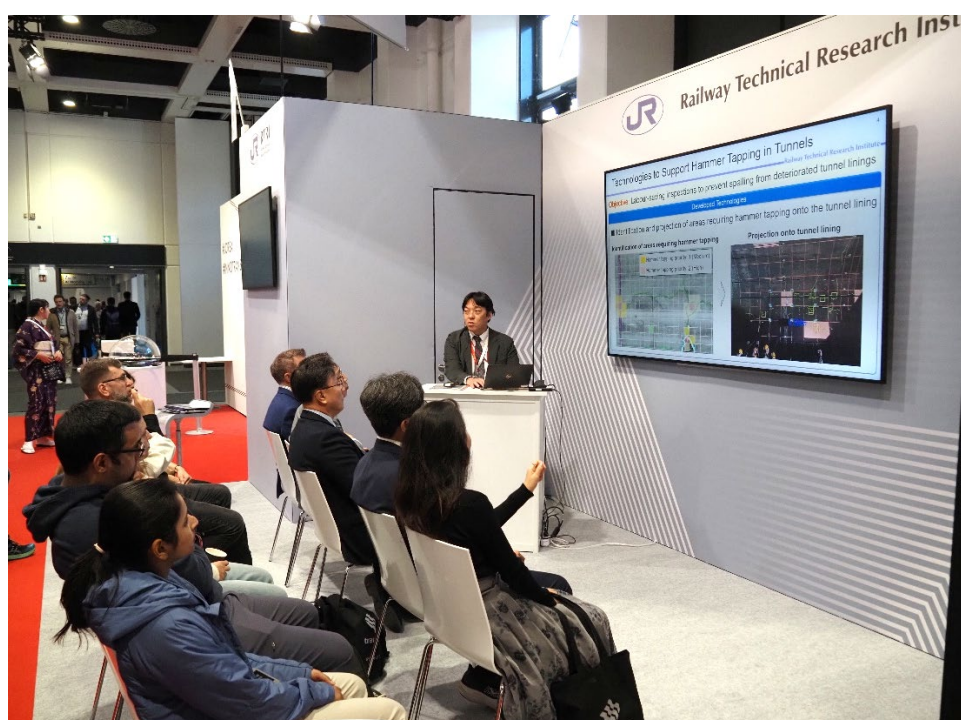


写真2 プレゼンの様子

(報道機関問い合わせ先)

公益財団法人鉄道総合技術研究所総務部 広報 TEL:042-573-7219